学会記事

総会報告

日本菌学会 2020 年度第 1 回代議員総会（Web 会議） 議事録

日時：2020 年 6 月 19 日（金）
出席者（順不同，敬称略）：
会長　田中千尋　副会長　矢口貴志
理事：清水公徳（庶務），伴さやか（庶務），糟谷大河（国内集会），谷口雅仁（国内集会），山田明義（日本菌学会会報編集責任者），保坂健太郎（国際集会），中島千晴（国際集会 [AMC]），細矢 剛（企画・広報・教育・普及），田中栄爾（編集委員長），本橋慶一（会計）
監事：大和政秀，稲葉重樹
代議員：青木孝之，会見忠則，太田祐子，岡田 元，岡根 泉，折原貴道（庶務幹事），佐久間大輔，清水由巳，白水 貴，田中和明，玉井 裕，出川洋介，中桐 昭，廣岡裕吏，星野保，細江智夫，前川二太郎，松澤哲宏，山岡裕一
委任状　大園 享司，橋屋 誠，広瀬 大，升屋 勇人，野中健一　欠席　吹春 俊光

会議成立の確認
新型コロナウイルスの感染防止を図るため，Zoom を用いた Web 会議形式で実施された．理事，監事及び代議員 33 名が参加，5 名から委任があり，総会の成立を確認した．

議題
・2019 年度事業報告
・【審議事項】2020 年度事業予定

【2019 年度事業報告】
I.　庶務関係（清水・伴 理事）
1.　会員動向
(1)　2020 年 3 月現在，正会員 553 名（国内 515，国外 38），学生会員 132 名（国内 116，国外 16），終身会員 115 名（全て国内），名誉会員 23 名（国内 20，国外 3），功労会員 2 名，賛助会員 14 社，会員総数 839 名．
(2)　逝去会員：勝屋敬三氏（名誉会員；2019 年 7 月 11 日），衣川堅二郎氏（名誉会員；2019 年 7 月 5 日），山上公人氏（正会員；2019 年 8 月），下田智博氏（正会員；2019 年 11 月 11 日），古川久彦氏（名誉会員；2020 年 1 月 25 日）
(3)　賛助会員：第一三共 RD ノバーレ　の部署名変更「創薬基盤研究部天然物 G」→「生物評価研究部天然物 G」
2.　会議の開催状況
(1)　理事会
第 1 回理事会　2019 年 4 月 21 日　東京理科大学葛飾キャンパス
第 2 回理事会　2019 年 5 月 24 日　秋田県立大学秋田キャンパス
第 3 回理事会　2019 年 12 月 15 日　東京理科大学葛飾キャンパス
第 4 回理事会　2020 年 3 月 28 日　メール会議（4 月 3 日まで）
(2)　総会
第 1 回総会　2019 年 5 月 24 日　秋田県立大学秋田キャンパス
(3)　メール理事会
第 1 回（2019 年 4 月 18 ～ 19 日）ニュースレター編集経費の前倒し執行について（原案承認）
第 2 回（2019 年 6 月 17 ～ 19 日）日本菌学会のサイト内の検索機能の更新について（原案承認）
第 3 回（2019 年 6 月 25 ～ 28 日）AMC 参加補助申請について（原案承認）
第 4 回（2019 年 8 月 1 ～ 4 日）AMC 参加補助申請について・その 2（原案承認）
第 5 回（2019 年 8 月 5 ～ 9 日）日本微生物生態学会と共催行事「いきものミクロ探検隊」について（原案承認）
第 6 回（2019 年 10 月 15 ～ 18 日）AMC 参加助成について（原案承認）
第 7 回（2019 年 10 月 30 ～ 11 月 1 日）AMC 参加助成について・その 2（原案承認）
第 8 回（2020 年 2 月 25 ～ 28 日）中高生向けのイベント（国立科学博物館との共催）中止について（原案承認）
第 9 回（2020 年 3 月 28 ～ 4 月 3 日）第 4 回理事会
(4)　持ち回り総会
第 1 回（2020 年 2 月 14 ～ 28 日）授賞候補者および授賞候補論文の選考について
(5)　その他の会議
会員説明会（2019 年 5 月 24 日　秋田県立大学秋田キャンパス）
第 1 回授賞者および授賞論文選考委員会（2020 年 1 月 30 日）
第 1 回名誉会員選考委員会（2019 年 12 月 6 ～ 23 日・メール会議）
3.　日本菌学会授賞者および授賞論文の選考（NL2020 年 7 月号 p12 と同じ）

日本菌学会賞	山田明義氏
日本菌学会奨励賞	瀬戸健介氏
日本菌学会奨励賞	山本航平氏
日本菌学会教育文化賞	森本繁雄氏

日本菌学会平塚賞　Kensuke Seto, Yosuke Degawa; *Pendulichytrium sphaericum* gen. et sp. nov. (Chytridiales, Chytriomycetaceae), a new chytrid parasitic on the diatom, *Aulacoseira granulata*, Mycoscience vol. 59, pp 59–66, 2018.

日本菌学会会報論文賞　白水貴・稲葉重樹・牛島秀爾・奥田康仁・長澤栄史；「日本産“*Auricularia auricula-judae*”および“*A. polytricha*”の分子系統解析と形態比較による分類学的検討」，日本菌学会会報 59 巻 pp 7–20.

日本菌学会会報論文賞　藤原沙耶・遠藤直樹・早乙女 梢・前川二太郎・中桐昭；「鳥取砂丘海岸に生息する好砂海生菌の多様性と生態」，日本菌学会会報 59 巻 pp 25–37.

4.　契約の更新

勝美印刷との業務委託契約を自動更新した．網野誉税務会計事務所との業務委託契約を自動更新した．

5.　2019 年度業務・会計監査

2020 年 5 月 20 日，Zoom によるオンライン会議にて大和監事，稲葉監事，網野会計士，田中会長，清水理事，伴理事，本橋理事，近藤氏（勝美印刷）の各氏により監査を行った．

II.　国内集会関係（糟谷・谷口 理事）

1.　日本菌学会第 63 回大会（秋田大会）開催報告

主 催：一般社団法人 日本菌学会
一般社団法人 日本菌学会 会長 山岡 裕一
一般社団法人 日本菌学会 第 63 回大会会長
村口 元（秋田県立大学生物資源科学部）

共 催：公立大学法人 秋田県立大学（生物資源科学部）

会 期：2019 年 5 月 24 日（金）～ 26 日（日）

会 場:秋田県立大学生物資源科学部（秋田キャンパス）

懇親会会場：秋田ビューホテル（5 月 25 日 (土) 18:30 ～ 20:30）

大会参加人数:事前申込み 162 名, 当日申込み 26 名（合計 188 名）

懇親会参加人数：事前申込み 126 名，当日申込み 14 名（合計 140 名）

講演数：

受賞講演：3 題（細矢剛氏，遠藤直樹氏，折原貴道氏）

公開シンポジウム「菌類の進化と共生と成長のダイナミクス（動的な生き様）」: 4 題（堀千明氏，松浦優氏，小林裕樹氏，竹下典男氏）

一般講演：94 題（口頭発表 55 題，ポスター発表 39 題）

中高生ポスター発表：3 題

展示および交流企画：

菌学若手の会による「日本珍菌賞」についての展示

アマチュア展示

「菌類に関する学生実習書等の展示」

企業展示

大会収入：1,883,000 円，同支出：1,883,000 円.

懇親会収入：1,062,000 円，同支出：1,062,000 円.

2.　2019 年度日本菌学会菌類観察会（青森フォーレ）開催報告

会 期：2019 年 9 月 6 日（金）～ 8 日（日）

会 場：弘前パークホテル（講演会・説明会），弘前大学農学生命科学部（同定会）

共 催：弘前大学農学生命科学部，鰺ヶ沢町，白神キノコの会，日本菌学会東北支部，青森県きのこ会，青森きのこ友の会，八戸きのこ友の会，三沢きのこ同好会，黒石きのこ研究会，五所川原山酔会，菌類懇話会

実行委員長：佐野輝男氏（弘前大学農学生命科学部）

講演会：6 日（金）14：00 ～ 16：00，弘前パークホテル ラ・メェラ

白神山地の微生物ー細菌と酵母を中心にー（殿内暁夫氏）

青森県産ブナ林のきのこ（工藤伸一氏）

説明会：6 日（金）16：00 ～ 18：00，弘前パークホテル ラ・メェラ

日程説明，観察会・同定に関する注意，観察地についての説明など

観察会：7 日（土）8：00 ～ 19：00，白神の森遊山道及び弘前大学白神自然観察園，同定会場は弘前大学農学生命科学部（実験室）

観察地：A. 白神の森遊山道（鰺ヶ沢町），C. 弘前大学白神自然観察園（西目屋村）

参加者：89 名.

観察会収入：704,000 円，同支出：704,000 円.

懇親会収入：444,000 円，同支出：444,000 円.

3.　日本菌学会第 64 回大会（大阪大会）開催中止にかかる対応

参加登録状況：2 月末に事前参加登録を終了（事前参加登録者：159 名）

要旨登録状況:3 月 13 日に要旨登録を終了（受賞講演: 3 題；一般講演：120 題；中高生ポスター発表：23 題）

・新型コロナウイルス感染症が全国で拡大し，早期の終息が見込めない状況において，感染拡大の防止を図るとともに，学会・大会関係者の安全・安心および健康に最大限配慮するため，大阪大会を中止することとし，4 月 3 日（金）に学会および大会のウェブサイトへ中止のお知らせを掲載した．また同日，会員メーリングリストおよび大会参加申込者への中止に関するメール配信を行った．

4. 2020 年度日本菌学会菌類観察会（八王子フォーレ）開催中止にかかる対応

・ニュースレターに会告を掲載済.

・新型コロナウイルス感染症が全国で拡大し，早期の終息が見込めない状況において，感染拡大の防止を図るとともに，学会・観察会関係者の安全・安心および健康に最大限配慮するため，八王子フォーレの本年度の開催を中止することとした.

・日菌報（第 61 巻 第 1 号）に中止のお知らせを掲載するとともに, 菌学会ホームページへの記事掲載（6 月 3 日付）と会員メーリングリストへのメール配信（6 月 4 日）を行った.

III. 国際集会関係（保坂 理事）

1. Asian Mycological Congress 2019 in Mie (AMC2019) の開催

(1) 開催報告

会期 : 2019 年 10 月 1 日（火）～ 4 日（金）

会場 : 三重県総合文化センター （三重県津市)

参加者数 : 364 名 (海外 : 22 カ国 208 名)

演題数 : Plenary Lecture 3 題 , Keynote lecture 3 題 , SIG 3 グループ 14 演題 , Oral Session 23 セッション 112 題 , Short + Poster Presentation 182 演題 , ハンズオンワークショップ (International Mycological Association 共催 参加者 6 カ国 15 名)

・Asian Mycological Congress は 2 年に一度，アジア，太平洋域の菌学者が集う菌学に特化した学術集会で，近年では 20 を超える国から参加者がある世界でも注目される集会となっている．2017 年ベトナム AMC2018 での誘致に成功し三重県津市で開催することとした．日本菌学会では中島理事を担当とし，奥田徹　前菌学会会長を大会会長に迎え，上記の要領で運営し，盛会の内に終了した．次回は 2021 年にタイ王国チェンマイで開催される予定である.

(2) 学生，若手研究者への参加助成を実施し，計 11 名に助成した.

(3) 助成該当者へは AMC 参加報告を菌学会ニュースレターに寄稿した.

2. 第 10 回食用菌根性きのこに関する国際ワークショップ IWEMM10（The 10th International Workshop on Edible Mycorrhizal Mushrooms）の開催援助

(1) 菌学会として IWEMM10 の後援団体に入った.

(2) IWEMM10 開催にあたり，IWEMM10 実行委員会に 20 万円を拠出した.

(3) IWEMM10 側より Mycoscience への総説論文執筆を依頼した（1 件は審査中，1 件は投稿予定）.

(4) 10 月 20 日プレワークショップ（公開講演会），10 月 21 日～ 25 日に本会議を行いった．本会議への参加者は，海外 19 カ国から約 70 名の，日本からは約 40 名だった．基調講演 2 題，一般口頭発表 46 題，ポスター発表 34 題が行われた．26 日～ 29 日にポストワークショップを開催し，参加者は 32 名だった.

3. 日中韓台の合同シンポジウム

(1) アジア菌学会開催期間中に日（保坂）＋中台韓の代表者と会合を実施し，今後の合同シンポジウムに関する意見交換をした.

(2) 全員一致した意見として，開催ホスト国となることの負担と，インタラクションの低調さが挙げられた.

(3) 対応策として，今後は日中台韓の合同で，AMC の無い年に隔年で東アジア合同菌学シンポジウム（仮称）のような形にしてみてはどうか，という意見が交わされ，各国ともこの線で協議を進めることとなった.

(4) 当日の会合出席者は以下の通り：

Dr. Young-Joon Choi (Kunsan National University, Korea)

Dr. Wei-Chiang Shen (National Taiwan University, Taiwan)

Dr. Zhu-Liang Yang (Kunming Institute of Botany, China)

Dr. Lei Cai (Chinese Academy of Sciences, China)

4. 自然史学会連合主催国際シンポジウムの開催

2019 年 9 月 4 日・5 日に京都大学において，国際シンポジウム「研究活動，資料収集，普及教育，アウトリーチを推進するツールとしての自然史博物館ネットワーク：アジアの事例研究」('Network of Natural History Museums' as a Tool for Promoting Research, Collection building, Education and Outreach: Case Studies from Asian Regions）が開催され，菌学会自然史学会連合連絡委員の保坂が企画運営に携わった．招待演者計 4 名による講演会では，パネルディスカッションの部に細矢理事がパネラーとして登壇した他，ポスター発表の場も設けられ，計 23 題の発表があった.

5. 日台合同菌学シンポジウムの開催

2020 年 2 月上旬にメールで台湾側（Dr. Wei-Chiang Shen）と打合せを行った結果，以下の通りであった：

(1) 合同シンポジウムは 2020 年 10 月（仮）に台湾にて開催予定

(2) コロナウイルスの影響が未知数であるため，実際の開催可否・時期等については詰め切れない.

(3) ポスター発表の受付は可能.

(4) 口頭発表（一般）の受付も可能．ただし受入のキャパシティーの問題もあるため，日本側から何題程度の発表が見込めるかの見積もりが必要.

(5) 費用負担については，台湾側が 3 名の招へい演者の旅費をサポートするが，飛行機代は含まない（これについては日本側が負担することになる）.

6.　日韓合同シンポジウムの開催

2021 年に開催予定であるが，今年度の台湾でのシンポジウムが延期／中止になった場合や，そもそも AMC と重なる年であることなどから，現状では対応が立てにくい状況である．本件について韓国側代表（Seung-Yeol Lee, Kyungpook National University）および台湾側代表に問題提起をし，今後の進め方についてメールで協議を行った（2020 年 5 月 15 日）．韓国・台湾両国とも，現状での対応について検討中であり，結論は出ていない.

（質疑応答・コメント）

・日中韓台合同シンポジウムの開催に向けての調整を進めながら，日韓シンポも独立して準備を進めるのか．→そのつもりだが，今後の状況によっては，仕切り直して両方の合同開催の可能性もあり得る.

・AMC は広い範囲の国々が参加し活発なので，AMC のない年に地方の大会をやったらどうだという提言があった．東アジアはその中でも活発で話が進められそうだが，多少その他の国からの影響も受けつつ検討する.

・日中韓台の合同シンポ開催については以前から非公式に話が挙がっていたが，担当者の負担も大きいので，効率よく改善できるのであれば，その方向性を探っていただきたい.

IV.　企画・広報・教育・普及関係（細矢 理事）

1. 普及行事

(1)　教員向け：教員のための博物館の日（7 月 26 日，於国立科学博物館）に参加.

「絶対に失敗しない菌類の観察材料」として「コウジカビ」（麹），「酵母」（ドライイーストの培養），「ベニタケ類」（坦子器）を紹介．必要に応じて資料，パンフレットを配布した.

(2)　大学生のための菌類学入門（8 月 3 日，於国立科学博物館　自然教育園）.

(3)　微生物生態学会との合同普及事業「いきものミクロ探検隊」（12 月 8 日，於茨城県立自然博物館）

微生物生態学会が同事業を始めてから 10 年目（菌学会が参加してから 7 年目）にあたるため，拡大バージョンとして，恒例の観察会に加え，複数微生物の観察コーナー（バクテリア，菌類，原生動物，藻類）とトーク（6 題；菌学会からは 2 題）を加えて実施．観察会への参加者は 41 名（応募は 80 名以上）．菌学会からは 7 名のボランティアが参加（全体では 36 名）.

(4)　中高生向け

3 月 14 日から国立科学博物館にて開催予定の特別展「和食」に絡んだ内容で実施を検討していたが，新型コロナ対策のために開催が延期されたため，企画段階で頓挫．年度内の開催を断念.

2. ニュースレター

(1)　2019 年 -3 号（7 月号）　2019 年 7 月 1 日発行，20 ページ

巻頭言 1，紹介 5（うち学位論文 4），掲示板 1，学会記事 2

(2)　2019 年 -4 号（9 月号）　2019 年 9 月 1 日発行，16 ページ

報告 1，紹介 3（うち学位論文 2），随想 1，学会記事 2

(3)　2020 年 -1 号（1 月号）　2020 年 1 月 1 日発行，28 ページ

報告 7（うち AMC6），書評 2，学会記事 4

(4)　2020 年 -2 号（3 月号）2020 年 3 月 1 日発行，28 ページ

報告 7（うち AMC5），紹介 2（うち学位論文 1），掲示板 2，学会記事 2

・ニュースレターのオープン化を提案し，方向性は了承されたが，「オープン化」にともなうライセンスの設定について検討不十分であったため，細部を詰めている.（審議事項参照）

3. ホームページ

ウェブサイトの賛助会員向けのロゴをホームページ上で公開できるようにした．また，ウェブサイトの英文化に着手した.

4. その他：標本の輸入に関する農水省規制改定について

植物標本を輸入する際に「Phytosanitary Certificate」が必須となった処置の撤回を求めて，植物分類学会・分類学会連合とともに農水省に働きかけてきたが，12 月をもって元の適用に戻す（Phytosanitary Certificate 不要）方向となり，パブリックコメント

が行われた．現在，新型コロナ対策に伴う輸入規制のため，対応が遅れている（6 月中旬解除予定）．方針は決定しているので，近日中に対応が進むものと思われる．

V.　編集関係（田中栄爾 理事，山田 理事）

1. 学会誌の発行状況

(1)　Mycoscience

Volume 60，2019（契約頁数 (378~) 420 (~462)）　計 361 頁
契約頁数の下限を下回った．

60 (1): 1−80 (pp. 80), Jan 2019（論文 6 編，短報 4 編）
60 (2): 82−135 (pp. 54), Mar 2019（論文 7 編，短報 1 編）
60 (3): 137−209 (pp. 73), May 2019（論文 8 編, 短報 4 編）
60 (4): 211−269 (pp. 59), Jul 2019（論文 4 編，短報 5 編）
60 (5): 271−312 (pp. 42), Sep 2019（論文 3 編, 短報 5 編）
60 (6): 313−365 (pp. 53), Nov 2019（論文 3 編, 短報 6 編）

Volume 61，2020（契約頁数 (378~) 420 (~462)）　昨年より少ないペース

61 (1): 1−48 (pp. 48), Jan 2020（論文 6 編，短報 1 編）
61 (2): 49−100 (pp. 53), Mar 2020（総説 1 編，論文 2 編，短報 4 編，資料 1 編）
61 (3): 101−150 (pp. 50), May 2020（総説 1 編, 論文 4 編，短報 2 編）
61 (4): 151−203 (pp. 53), Jul 2020（論文 5 編，短報 3 編，資料 1 編）
Accept 12 編　審査中＆返信待 31 編　2020 年 6 月 12 日現在

61 巻のオープンアクセス論文 2 本の 19 頁は契約頁数から除外されるため，4 号までで 185 頁となる．そのため，今年も Elsevier との契約頁数を大幅に下回ることが予想される．

(2)　日本菌学会会報（以下，日菌報）

・第 60 巻，2019 年
・60(1): 論文 3 編を掲載（5 月発行）
・60 (2) : 総説 1 編, 短報 1 編, 資料 1 編を掲載 (11 月発行)．J-STAGE から公開済．

日菌報 61(1) より英語論文の掲載が可能となったことから，60(2) に新たな投稿規定を掲載した．

2. 投稿状況

(1)　Mycoscience

2016 年：受付論文数 202 報，受理 80 報，却下 109 報（却下率 54%），取下げ 13 報．
2017 年：受付論文数 179 報，受理 58 報，却下 113 報（却下率 63%），取下げ 8 報．
2018 年：受付論文数 119 報，受理 50 報，却下 66 報（却下率 55%），審査中 1 報，取下げ 5 報．
2019 年：受付論文数 121 報，受理 37 報，却下 74 報（却下率 61%），審査中 7 報，取下げ 3 報．
2020 年：受付論文数 79 報，受理 12 報，却下 45 報，審査中 22 報（-2020 年 6 月 12 日）

(2)　日菌報

2019 年度の投稿数：審査論文数 12 報，受理 9 報，却下 1 報 (却下率 8.3%)，審査中 2 報，(-2020 年 4 月 20 日)

・学会賞受賞総説：日本菌学会賞：2012 年度（ 1 名），2016 年度（ 1 名），2017 年度（ 1 名），2019 年度（1 名）；奨励賞：2014 年度（ 1 名），2018 年度（1 名；61 巻 2 号掲載用原稿依頼中），2019 年度（1 名；61 巻 2 号掲載用原稿依頼中）投稿待ち．

3. Mycoscience の IF ＊の推移

2011 (v52)	2012 (v53)	2013 (v54)	2014 (v55)	2015 (v56)	2016 (v57)	2017 (v58)	2018 (v59)
1.212	1.165	1.288	1.418	1.165	1.014	1.229	1.380

6 月末に 2019 年の IF が通知される

他の主要 Mycology 雑誌の 2018 年 IF

Fung Div	Perso-onia	Fung Ecol	Mycol-ogia	Fung Biol	Mycol Prog	Myco-taxon
15.596	6.860	3.990	2.861	2.699	2.000	0.531

＊（2018 年の IF）＝（2016・2017 年掲載論文が 2018 年に引用されたのべ件数）／（2016・2017 年に掲載された論文の総数）

4. 編集委員会の開催

第 1 回編集委員会；2019 年 5 月 24 日開催（大会期間中）
第 2 回編集委員会；(2019 年 6 月 20 日付メール会議）日菌報投稿規定について．
第 3 回編集委員会；(2019 年 8 月 5 日付メール会議）平塚賞および日本菌学会会報論文賞推薦論文の選考について

5. 投稿規定・細則の改定

・日菌報への英語論文（新産種報告のみに限る）に関する改訂を行った．英文資料の掲載等に関する投稿規定・細則の改定を編集委員会メール会議にて議論し，2019 年 8 月 9 日付けで改定した．改定版は Web および日菌報 61 巻 2 号へ掲載した．
・その他，Mycoscience の投稿規定の些細な点の修正を随時おこなった．

6. 2019 年度平塚賞および日本菌学会会報論文賞候補論文の選出

2020年度日本菌学会一般会計予算案

2020.3.31

収入の部

費目	2018年度決算	2019年度決算	2020年度予算	前年比(%)	備考
会員費	**7,771,000**	**7,574,500**	**8,068,000**	**106.5**	
正会員	5,599,000	5,626,500	5,665,000	**100.7**	正会員515人x¥11,000
学生会員費	446,000	445,500	638,000	**143.2**	国内学生会員116人x¥5,500
海外会員費	396,000	302,500	506,000	**167.3**	海外正会員38人x¥11,000,海外学生会員16人
賛助会員費	750,000	700,000	700,000	**100.0**	賛助会員14社x¥50,000
終身会費預金戻金	580,000	500,000	559,000	**111.8**	終身会員費基金の1割 特別会計参照
出版物販売	**1,792,531**	**1,631,423**	**1,730,000**	**106.0**	
頁チャージ・超過ページ料	1,243,400	1,093,500	1,200,000	**109.7**	6000/ページ, 200頁程度と見積もり
50周年記念出版,CD-ROM等	0	0	0		
会報等	541,131	526,073	530,000	**100.7**	
DVD販売, 新版用語集	8,000	11,850	0	**0.0**	
60周年記念書籍	0	0	0		
事業費戻入	**0**	**0**	**0**		
学術振興会補助金	**3,800,000**	**3,600,000**	**3,800,000**	**105.6**	交付内定額
雑収入	**1,429,911**	**23,192,079**	**1,250,110**	**5.4**	
預貯金利子	161	109	110	**100.9**	基金利子含む
学術著作権協会	43,236	115,492	50,000	**43.3**	
広告費	0	0	0		
寄付	0	0	0		
エルゼビア編集経費	1,193,500	1,200,000	1,200,000	**100.0**	
その他	0	534,828	0		
AMC開催関連前受金	188,262	21,341,650	0	**0.0**	
科学技術振興機構	4,752	0	0		
前年度繰越金	**29,964,745**	**31,980,797**	**30,040,013**	**93.9**	
合計	**44,758,187**	**67,978,799**	**44,888,123**	**66.0**	

支出の部

費目	2018年度決算	2019年度決算	2020年度予算	前年比(%)	備考
事業費	**1,814,248**	**25,775,324**	**772,800**	**3.0**	
年次大会補助	300,000	300,000	200,000	**66.7**	
菌類観察会補助	50,000	50,000	0	**0.0**	観察会中止のため
菌類観察会下見	0	0	30,000		前年度分を含む
学会賞	19,980	59,400	127,800	**215.2**	「学会賞」「奨励賞2件」「教育文化賞1件」「論文賞2件」楯代・賞状;平塚賞は特別会計
菌類講座	76,370	0	0		
国際シンポジウム	220,729	200,000	165,000	**82.5**	日台合同シンポ
国際情報発信(AMC)	1,139,457	25,155,020	100,000	**0.4**	AMCのHP維持
中高生・教員向け研修	7,712	10,904	150,000	**1375.6**	微生物生態学会との共催活動を含む
会報刊行経費	**7,039,547**	**8,246,820**	**10,010,000**	**121.4**	
Mycoscience・日菌報編集費	0	48,000	50,000	**104.2**	
ニュースレター編集費	0	18,846	20,000	**106.1**	
Mycoscience 出版費	5,550,000	5,550,000	7,500,000	**135.1**	編集システムの構築, マーケティング、プロモーション活動費含む, 一部科研費
日菌報印刷費	729,682	702,463	720,000	**102.5**	
ニュースレター印刷費	594,989	453,671	300,000	**66.1**	
一部オープンアクセス化費用	0	723,800	500,000	**69.1**	科研費
アジア地域新種等公表	38,664	435,174	450,000	**103.4**	科研費
雑誌等発送費	126,212	314,866	470,000	**149.3**	
英語パンフレット作成費	0	0	0		
運営経費	**3,923,595**	**3,916,642**	**4,555,000**	**116.3**	
役員選挙	304,814	0	300,000		
業務委託費	2,023,920	2,042,660	2,050,000	**100.4**	一部科研
ホームページ維持費	234,360	0	840,000		英文ページ作成費30万円含, 管理費2年分, データベース維持費, 一部科研費
団体分担金	109,326	203,236	210,000	**103.3**	
交通費	489,604	888,094	400,000	**45.0**	
事務通信費	209,963	164,432	170,000	**103.4**	
法人化維持費	70,000	112,900	70,000	**62.0**	税, 登記手続きを含む
会計士費用	150,000	150,000	150,000	**100.0**	
諸雑費	266,700	272,629	280,000	**102.7**	クレジット決済費用含む
各種手数料	64,908	82,691	85,000	**102.8**	振込手数料他
予備費(次年度繰越金)	**31,980,797**	**30,040,013**	**29,550,323**	**98.4**	
合計	**44,758,187**	**67,978,799**	**44,888,123**	**66.0**	

【資料 2】

2019年度日本菌学会特別会計決算案

2020.3.31

【終身会員費基金】

収入の部

費　　目	2018年度決算	2019年度予算	2019年度決算	備考
前年度繰越金	5,291,613	5,041,613	5,041,613	
終身会員費(新規納入分)	330,000	330,000	550,000	
利息	0	0	0	
合　　計	5,621,613	5,371,613	5,591,613	

支出の部

費　　目	2018年度決算	2019年度予算	2019年度決算	備考
一般会計繰入	580,000	500,000	500,000	4/1時点の10%を一般会計に繰り入れる
予備費(次年度繰越金)	5,041,613	4,871,613	5,091,613	
合　　計	5,621,613	5,371,613	5,591,613	

【平塚基金】

収入の部

費　　目	2018年度決算	2019年度予算	2019年度決算	備考
前年度繰越金	2,196,178	2,175,766	2,175,766	
寄付	0	0	0	
利息	0	0	0	
合　　計	2,196,178	2,175,766	2,175,766	

支出の部

費　　目	2018年度決算	2019年度予算	2019年度決算	備考
平塚賞(楯代)	19,980	39,960	38,880	
振り込み手数料	432	432	432	
予備費(次年度繰越金)	2,175,766	2,135,374	2,136,454	
合　　計	2,196,178	2,175,766	2,175,766	

【菌学振興基金】

収入の部

費　　目	2018年度決算	2019年度予算	2019年度決算	備考
前年度繰越金	6,442,291	6,290,995	6,290,995	
大会余剰金	0	0	0	
寄付	0	0	0	
利息	0	0	0	
合　　計	6,442,291	6,290,995	6,290,995	

支出の部

費　　目	2018年度決算	2019年度予算	2019年度決算	備考
若手国際会議参加費補助	150,000	200,000	198,000	
日韓シンポジウム	0	0	0	
振込手数料	1,296	0	2,695	
予備費(次年度繰越金)	6,290,995	6,090,995	6,090,300	
合　　計	6,442,291	6,290,995	6,290,995	

2019 年度平塚賞候補論文の選出について，1 論文を平塚賞候補論文，2 論文を日本菌学会会報論文賞候補論文として推薦した．

7. オープンアクセス論文

2019 年度の予算で以下の 2 編の総説を Mycoscience にオープンアクセスとして掲載した．Elsevier へ支払う 1 本あたり約 36 万円の費用は，いずれも科研費から支出した．(2019 年度予算内)

１）Yamanaka, T. (2020) Advances in the cultivation of the highly-prized ectomycorrhizal mushroom *Tricholoma matsutake*. Mycoscience. 61 (2): 49–57.

２）Oide. S. & Turgeon G. (2020) Natural roles of nonribosomal peptide metabolites in fungi. Mycoscinece. 61(3): 101–110.

8. 編集経費

(1) Mycoscience

編集補助謝金：61 巻 1 号と 2 号のスタイルチェック代を１頁 1,000 円として 48,000 円（2 報分）支出した．

(2) 日菌報

日菌報バックナンバーの J-STAGE 搭載作業は，昨年度中に完了せず，今年度に一部持ち越しとなったため，審議事項に移す．

9. Mycoscience の Elsevier から J-STAGE への移行

・61 巻 6 号をもって，Elsevier 社との出版契約が切れる．出版を継続するため，会長の下に結成した Mycoscience 刊行ワーキンググループ（田中千尋会長, 山岡裕一前会長, 田中栄爾，清水，青木，小野，服部，矢口，中島，埋橋，小長谷）で検討した．理事会の討議を経て，J-STAGE 上で 62 巻 1 号から掲載するための準備を進めている．

・出版社の移行にともない，論文査読審査システムをElsevier 社の EES から J-STAGE 上の Editorial Manager（EM）に移行する．EM のシステム設定は J-STAGE と（株）アトラスに依頼し，https://www.editorialmanager.com/mycoscience/default.aspx としてほぼ運用可能な状態になっている．投稿規定等必要な資料を整備し，7 月からの運用を目指す．
・J-STAGE 上で公開する PDF ならびに HTML 作成について作業委託可能な印刷会社に接触し，プルーフ作成の手順を協議中．
・上記の移行に関する事案は後述の審議事項にも含まれる．

VI.　会計関係（本橋 理事）
2019 年度日本菌学会一般会計決算案および特別会計決算案（資料 1, 2）に基づき，報告がなされた．
・収入の部「AMC 開催関連前受金」については，額が大きいので，本会計に参入して監査を行った都合で，便宜上一般会計に計上されている．
・支出の部の雑誌等発送費については，2018 年度まではニュースレター（NL）印刷費に含められていたが，実状に合わせ，NL の発送費を厳密に独立させて計上させるため，新たに費目を立てた．

（質疑応答）
・AMC の費用が独立会計から一般会計に移された経緯をもっと詳しく説明して欲しい．
→ 当初，参加費の集金から精算までを JTB が一括して行うこととなっていたが, JTB から月に一度, 法人の口座（菌学会）に参加費を振り込むこととなった．また，法人を受取人とする公的助成があり，それらを一括して雑収入（前受金）として受け入れることにした．これらの収入は課税対象となる可能性があった．そのため補助金のみを支出し，会員が非課税となる学会大会とは異なる会計の体制をとった . 次に，金額が 2 千万円を超えることから事業費として，監査を受けることにし，終了までこの体制を取った．終了後は会計士に収支について検査を受け，課税対象外となる事を確認して頂いた．最後に，支払の金額の内訳については事務局に備え付けられているため，請求頂ければ開示できる．これは開催地で内訳を保管する大会とは異なる．
・5 月の会計監査により，AMC 関連の収支も含めて適正にかつ確実に執行されていることが確認されている．

VII.　業務及び会計監査報告
・新型コロナウイルス感染防止対策から，今年度の監査は Zoom により遠隔で行われた．会計監査を Zoom で実施しても法人運営上問題ないことは会計士に確認済みである．

・監査報告
1) 2016（平成 28) 年 12 月設立・一般社団法人日本菌学会の第 4 期事業年度における業務に関して，事務局から事業の報告を聴取し，業務および財産の状況を確認した．財産の状況については，2019 年度貸借対照表および財産目録の検討を行った．
2) 監査の結果
① 事業報告は一般社団法人日本菌学会の定款に従っていることを認める．
② 理事の職務の遂行に関し，不正の行為または法令若しくは定款に違反する重大な事実はない．
③ 2019 年度の貸借対照表および財産目録は，財産の状況を正しく示している．

・2019 年度会計監査報告
2019 年度一般社団法人日本菌学会会計決算について，2020 年 5 月 20 日，Zoom によるオンライン会計監査を実施しました．会計収支および財産に関係する書類・帳簿・証票等を慎重に監査した結果，いずれも正確かつ適正であり，収支決算が確実であることを確認いたしました．
2020 年 5 月 20 日水曜日
2019 年度一般社団法人日本菌学会
監　事
稲葉　重樹
大和　政秀

VIII. データベース委員会（細矢 理事）
日本産菌類リストを更新した．

【審議事項：2020 年度計画】
I.　庶務関係
1.　本年度事業の概要
日本菌学会 64 回大会（大阪，ただし新型コロナウイルス感染症拡大により中止決定），2019 年度菌類観察会（八王子，ただし新型コロナウイルス感染症拡大により中止決定），シンポジウム，講習会，公開講演会の開催，学会誌の発行，各賞授賞者の募集，名誉会員候補者の推挙，功労会員の推薦，役員選挙．

2.　会議の開催について
・第 1 回理事会：2020 年 4 月 24 日　Zoom によるオンライン会議
・第 2 回理事会：2020 年 6 月 18 日　Zoom によるオンライン会議
・第 1 回総会：2020 年 6 月 19 日　Zoom によるオンライ

ン会議
・第 3 回理事会：2020 年 11 月（予定）
・第 4 回理事会：2021 年 3 月（予定）
・第 2 回以降の総会：持ち回り（各賞授賞及び名誉会員推挙，その他の会議）
・各委員会：適宜
・その他，必要に応じてメールによる理事会を開催する．

3.　名誉会員候補の推挙，各賞候補，功労会員候補の募集について
名誉会員候補の推挙，日本菌学会賞，日本菌学会奨励賞，日本菌学会教育文化賞，日本菌学会平塚賞，日本菌学会会報論文賞の授賞者，および功労会員候補の募集を行う．

4.　業務委託・会誌の出版について
前年度に引き続き，勝美印刷に会員管理，出納業務，カード決済，サーバー管理運営等の業務委託を行う．前年度に引き続き，網野誉税務会計事務所に税理士業務，月次顧問業務を委託する．
Mycoscience はエルゼビア社（2020 年 12 月まで），日本菌学会報及びニュースレターは，勝美印刷に出版委託を行う．なお，Mycoscience は 2021 年 1 月以降，投稿審査システムは J-STAGE（Editorial Manager）を用い，版組みおよび論文のアップロードは入札を経て業務委託し，J-STAGE 上で公開する（完全オンラインジャーナル化）．ただし，有償でのオンデマンド印刷サービスは残す．

5.　役員選挙について
2021-2022 年度代議員，会長・副会長・理事候補者選出選挙を行う．
選挙管理委員：岡根泉氏，清水由巳氏．

6.　授賞規定の改訂の提案
授賞規定について理事会から総会に原案が提案された．本会議後，会則検討委員会の審議を経て再び総会で審議し，変更していきたいと説明された．
(1)　奨励賞の改定の目的：近年，若手研究者の正規職への就労年齢が上がっていること，科研費や他学会の同様の賞における若手の年齢層が引き上がっていること，及び対象者が減少傾向にあることから，奨励賞の対象を広げたい．
　改定案（授賞規則第 4 条）　日本菌学会奨励賞は，菌学領域の進歩に寄与する研究業績を挙げ，なお将来の発展を期待し得る満 35 才以下，または博士号取得後おおむね 10 年以内の正会員または学生会員に授与するものとする．
　２　同一年度の授賞は３件以内とする．
(2)　年次大会や子供向けサイドイベント等において，実行委員会や企画担当者の裁量によって優秀発表賞やポスター賞等を設けているが，ルール化されていなかったため，学会長名が使えない事例があった．そこで，賞状の発行者を学会長名とする場合，授賞者の選考は理事会の承認を経た上で，実行委員会あるいは企画担当者に委嘱することとし，その議事録を残すことで運用する．

（質疑応答）
・奨励賞授賞対象条件について，博士号取得後概ね 10 年となると，論文博士（論博）も入ると思うが，どうなのか．
→この要件では論博の人も対象となるが，実際には，応募にあたって第三者による推薦が必要になるため，例えば高齢の方が応募資格に該当することがあったとしても，実際に推薦を受けて応募が来ることは現実的にはないだろうと考えている．奨励賞などの受賞は若手研究者にとって就職や昇進において有利になっても不利になることは無く，間口を広げるという意図を重視して，このように条件を設定した．いずれにしても，選考委員会による審査はこれまで同様に行われるので，将来の発展を期待しうる会員に授与するという奨励賞の方針に則った選考がなされることには変わりない．
→その他異議はなく，事業案が了承された．

II.　国内集会関係
1.　日本菌学会第 64 回大会（大阪大会）開催中止にかかる対応
・講演要旨集：編集・印刷済み．費用支払い済みの申込者に発送した．また，例年通り後日 J-Stage に搭載し，ウェブ上にも公開する．
・講演要旨原稿提出済み，かつ大会参加費用支払い済みの発表は，講演要旨集の発行をもって発表が成立したものと取り扱い，大会参加費用は返金しないこととする．
・講演を申し込まず，「参加のみ」で申し込んだ者の大会参加費用は，講演要旨集作成・発送費用を除した一部でも返金ができるか否か，実行委員会で検討している．
・懇親会費および昼食弁当代は，費用支払い済みの申込者に返金する．
・日本菌学会賞および日本菌学会奨励賞の受賞講演は，講演内容を予め録画したファイルを準備し，授賞式・受賞講演実施予定日であった 6 月 20 日から約 2 週間の間，日本菌学会の YouTube チャンネルで公開する予定．配信アドレスは学会・大会ウェブサイト，会員メーリングリストおよび大会参加申込者へのメール配信などで案内する予定である．
・教育文化賞，平塚賞，日本菌学会会報賞は受賞講演がないが，会長の祝辞を文書で添えて表彰楯を自宅または勤務先へ送るのみとする．楯の発送は学会賞および奨励

賞も同様に取り扱う．
・大会で予定されていた公開講演会，学術シンポジウムおよび写真展は機会を改めて実施することを検討する．
・一般講演（口頭・ポスター）のスライドやポスターを，演者自身が自己の責任で，演者自身が管理するウェブサイトや SNS などに公開することを望む要望が挙がった．そこで，twitter のハッシュタグ「#msjmeeting64」を設け，twitter 上で発表内容の公開を希望する演者に使用してもらうよう，大会ウェブサイトなどで案内する予定である．なお，内容の公表は演者自身の責任において行うことを明記し，特に学生の場合は所属教官の指導を仰ぐなど，未発表データの取扱いについて注意喚起をする．

2.　2020 年度日本菌学会菌類観察会（八王子フォーレ）開催中止にかかる対応

2019 年度に実施した下見経費（20,242 円）について，開催時期が不確定となるため，2020 年度菌学会会計から支出することとする．

3.　日本菌学会第 65 回大会の開催案

日本菌学会第 65 回大会（熊本大会）について以下のように準備を進めているが，今後の新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては，開催形態を柔軟に対応できるように検討したい．
・日程
　2021 年 5 月 28 日（金）編集委員会，理事会，総会（代議員会），合同懇親会
　2021 年 5 月 29 日（土）大会，懇親会
　2021 年 5 月 30 日（日）大会
・会場
　大会・各種委員会等：市民会館シアーズホーム夢ホール（熊本市民会館）（予定）
　懇親会（5 月 29 日）：熊本城ホール（会議室）（予定）
　合同懇親会（5 月 28 日）：未定
・大会実行委員会（予定）

会長	宮崎和弘　（森林研究・整備機構　森林総合研究所九州支所）
事務局長	木下晃彦　（森林研究・整備機構　森林総合研究所九州支所）
実行委員	高畑義啓　（森林研究・整備機構　森林総合研究所九州支所）
	辻田有紀　（佐賀大学農学部）
	金子周平　（熊本きのこ会）
	村上康明　（大分きのこ会）
	原田栄津子（宮崎大学農学部）
	佐藤大樹　（森林研究・整備機構　森林総合研究所）
	中村圭子　（熊本県林業研究・研修センター）

4.　2021 年度日本菌学会菌類観察会の開催案

2020 年度の開催を中止とする八王子フォーレについて，2021 年度以降に順延して開催することを検討する．

（コメント）
・フォーレ：観察会下見費用について，中止や延期になった場合も，実際に準備した年に観察会予算から支出していただく方が良い．→八王子フォーレの次に予定されている観察会については，学会として今後の下見は不要と考えており，観察会の予算にも下見の旅費は計上されていない．今年度の経費については今年度の予算から支出をお願いしたい．→他に質疑はなく，原案が了承された．

III.　国際集会関係

1.　日台合同菌学シンポジウム

(1) 2020 年 10 月開催を目標に，保坂・Shen で広報の準備を進める．
(2) 日本側の招待演者 3 名分の飛行機代を 2020 年度予算として計上したい．
(3) 学生および若手研究者が発表するための参加補助の予算（計 20 万円）を計上したい．
(4) 新型コロナウイルスの状況を見ながら，6 月中を目処に開催の可否，および参加助成等募集要項を決定する．台湾側からは 6 月いっぱいを目途に開催の可否について決定する，との連絡があった．日本側の予算措置その他の対応は，台湾側の方針に基づき柔軟に対応する．

2.　日韓合同菌学シンポジウム

(1) 2021 年以降の開催を軸に，保坂・Lee で準備を進める．
(2) 2020 年度台湾でのシンポジウムが予定通り開催できない場合に備え，日台韓の 3 か国で開催方法について調整を進める．
・10 月開催で進めているが，今後の状況次第では来年に延期する可能性もあり，その場合，日韓合同シンポジウムも延期になる可能性があることを了承いただきたい．台湾側からは，6 月いっぱいをめどに実施可否を検討すると連絡を受けている．→以上，国際関係の年度計画について原案の通り了承された．

IV.　企画・広報・教育・普及関係

1. 普及行事

以下の表 1 の通り計画するが，COVID-19 の影響が懸念されるので，各種普及行事の開催形態・内容については柔軟に対応する．

2. ニュースレター発行

1）例年通り，年 4 回の発行を予定している．
2）ニュースレターのオープン化
アクセサビリティの向上や社会に対する公益の観点から，会員に配布するだけではなく，ウェブに公開し，誰でも閲覧可能になるように検討している．一方，ウェブに公開するにあたり，誰でも手軽にコピー アンド ペーストができるようになるため，再利用，二次利用を行う上でのライセンス条件を明確にすることが望ましい．

そこで，ニュースレターをウェブで公開し，二次使用についてクリエイティブコモンズの CC ライセンスを導入する．基本的に CC BY-NC（表示 - 非営利）を推奨するが，著者の希望があれば CC BY-NC-ND（表示 - 非営利 - 非改変）も選択可能にする．

・NL は論文誌と異なり，表紙，研究レポート，解説，報告，紹介，随想など，多様なジャンルの記事によって構成されており，これら全てに同一のライセンスは適さない．
・普及の観点からは CC BY が最も適しているが，菌学会 NL にはアマチュアの方々を中心に美麗な写真が掲載されており，また，菌学会フォーレの報告などには参加者の集合写真や個人が特定できる写真など，肖像権に関わる写真も多数掲載されている．そのため，これらの写真を切り抜いて商用に利用したり，あるいは転載されたりすることを懸念し，投稿を控える人が出る可能性がある．そのため，当面の間は非営利，非改変を加えておいた方がリスク回避の観点からは望ましい．
・他の CC ライセンスも選択可能にすれば，もっとフレキシブルに対応可能になるが，多数の CC ライセンスの内容を短時間に理解するのは容易ではなく，投稿者にとっても大きな負担となる．そのため，選択肢は 2 つくらいにとどめておいた方が良い．

3.「UNITE」国際ワークショップ
開催の方向は了承されたが，新型コロナ世界流行に伴い，開催準備に関する見込みが立っていない．年度内開催の方向で検討を継続するが，できなければ今後開催するという形で考えている．

4.「菌類百選」について
同書は，日本菌学会の選定した「菌類百選」についての普及書籍として八坂書房が企画し，「菌類百選」選定関係者を著者として執筆編集が進められていたが，途中で頓挫していた．しかし，今年度に入ってから再開し，8 月下旬に刊行される見込みとなった（添付参照）．学会の立場は，本書への協力だが，「百選」は日本菌学会選定で，編著でもあるので，本書の帯への学会ロゴの使用をご承認いただきたい．
→確認事項の後，原案の通り了承された．

V.　編集関係
1.　今期の計画
1－1．編集委員と幹事
2019 年度と変更なし．
1－2．会議の開催
第 1 回編集委員会（メール会議）：2020 年 6 月（総会前）
第 2 回編集委員会：平塚賞・日本菌学会会報論文賞推薦論文の選考について（メール会議）．
1－3．Mycoscience 出版計画
61 巻 6 号まで Elsevier 社に出版委託する．年間契約ページ 420 ページとし，ページ数が増えた場合は超過ページ料金（15000 円／頁）で対応する．62 巻 1 号からは J-STAGE からオンライン出版する．PDF 作製および J-STAGE 公開作業の委託先については，次

表 1. 2020 年度普及行事予定

No	形態	事業名　［内容］	場所・実施時期	担当
1	イベント	教員のための菌類講座	7 月，科博の「教員のための博物館の日」に参加	細矢剛ほか
2	イベント	大学生のための菌類学入門	8/1，科博自然教育園	細矢剛
3	イベント	中高生のための菌類講座	未定	未定
4	イベント	微生物生態学会との共催アウトリーチ [1)] 菌学会の活動紹介・学生の交流促進など	11/22，茨城県自然博	細矢剛（＋ボランティア）
5	イベント	自然史学会連合主催講演会での広報 日本菌学会の体験ブース（菌の標本を観察する，など）を出展．	12 月 , 北九州市立いのちのたび博物館	
6	出版	ニュースレターの発行	継続	編集委員長；大前幹事
7	HP	ホームページ充実と英文ページの作成 [2)]	継続	企画普及担当理事・幹事
8	HP	SNS 等を通じた情報発信	継続	白水幹事

[1)] 昨年度のプログラムを踏まえ，内容の改変が予定されている．
[2)] データベース改良・学術コンテンツの充実・情報分野の紹介・ニュースレター一部コンテンツの公開の検討など．

年度科研費公募要領等の内容を理事会で吟味し，公開入札を行うか指名するかを判断する．

1－4．日本菌学会報出版計画

日菌報第61巻1号（5月），2号（11月）を発行する．

J-STAGEに日菌報バックナンバーを搭載する．

1－5．平塚賞および日本菌学会報論文賞候補論文の推薦

平塚賞および日本菌学会会報論文賞候補論文の選出について，メール会議を通じて選考を行い推薦する

2．Mycoscienceの J-STAGEでのオープンアクセス化ならびに論文掲載料について

2－1．62巻以降のMycoscienceの発行を日本菌学会が行い，J-STAGE上で公開するにあたり，Mycoscienceをオープンアクセスジャーナルとして全論文を公開したい．

2－2．オープンアクセスの定義には論文を無料で閲覧できることに加え，自由な再利用ができることも含まれている．そのため，掲載論文の利用形態に関するライセンスを明記することが必要である．日本菌学会が著者から論文の著作権の譲渡を受け，全論文に同一のCCライセンス（CC BY-NC-ND）*を付与することを考えている．

*CC BY-NC-ND（Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivs）

作品を複製，頒布，展示，実演を行うにあたり，著作権者の表示を要求し，非営利目的での利用に限定し，いかなる改変も禁止する．

3．発行経費捻出のため，論文掲載料（APC）の徴収を考えている．徴収対象者の範囲や金額については，学会員のメリットと負担額許容範囲を勘案し，理事会で協議したい．

（質疑応答）

・CC BY-NC-NDはかなり厳しい制約であるが，-NDを入れる目的を教えてほしい．例えば，投稿予定の著者が，過去の論文からデータを一部改変して他の記事に転用することなどはしばしば想定される．-NDを入れることで掲載データの転用が困難になり，投稿対象から外れてしまう懸念はないか．→著者が著作権移譲の手続きを踏めば，これまでと変わらずデータを改変し転用することは可能．また本来の目的とはまったく異なる転用・改変をされるのを防ぐことが可能である．ジャーナルへの投稿数を増やすべきという観点から，もう少し緩い制約で運用すべきという意見があれば，それを検討する必要はあると考えている．

・例えば，Ascomycete.orgはCC-BYで，かなり制約は緩い．一方，Elsevier社のMycologyジャーナルでは制約は厳しい．Mycoscienceでも，著作権移譲にあたり請求する諸費用を収入源にするという考えもあっても良い．→制約を順次緩めてゆくことには反対意見は上がりにくいので，初めは厳しい制約から施行するのが無難．現状維持という点では，原案のままで良いと考える．

・Mycoscienceのオープンアクセス（OA）化についての是非を（総会で）諮るのは，今回が初になる．Elsevierとの契約継続を断念した理由の一つも，同社が推奨するOA化の費用が高額であり菌学会からはその費用を拠出できない点にある．

・（Elsevierとの契約解除にあたり）Springer, Blackwell, Taylor & Francisとの契約の検討は行った．Springerは以前の契約先であり，話を進めづらい．残る2社は費用や担当者の存在などの都合で合い見積もりを取れる状況でなく，検討から外れた．そのため，J-STAGEに移行するのが得策ではないかとワーキンググループで話が挙がった．

・APCの徴収についてElsevierからの出版費用とJ-STAGEでの出版費用との差額については具体的にどの程度なのか？→（Elsevierは）論文1報あたり約6万円，年間およそ400万円程度だったと思う．J-STAGEでの公開の場合の見積は，初年度400ページ430万円　次年度以降380–400万円程度．現状で，APCが必須であるかということは微妙なところだが，科研費も今後安定して獲得できる保証はなく，また，Mycoscienceへの投稿に関しては直接的な恩恵の少ないアマチュアの会員の方々からの，実質的にボランティアに近い会費などの援助が今後も続く保証はなく，将来的に雑誌出版の継続性を勘案すると，ある程度はAPCの徴収も検討しなければならない．また，IFの上昇も期待される．

・APCの徴収について，J-STAGEでの公開は来年1月から始まるのに，時間的にそれと同時に実現できるのか．→APCという呼称は用いていないが，現在でも，非会員から投稿料は徴収している（6000円/頁）ので，新設には当たらないと理解している．しかし，投稿に大きく影響が出ることが懸念されると考えられるのであれば，持ち回り総会として再検討を加えるということも考えたいが，どうか．

・編集委員会での紙面による意見聴取がされたが，この結果の集約および意見統一がまだなされていない状況である．この状況で理事会・総会になってしまった．なし崩し的に議論が進んでしまうことを心配している．

→まずは編集委員会の意見の集約を図る方針で進めていきたい．編集委員会及び理事会で改めて討議を進める．原案を基に，Mycoscience の継続運用可能な形で著者にも負担をお願いできる具体的な額を探ってゆく．

VI. 会計

2020 年度日本菌学会一般会計予算案および特別会計予算案（資料 3, 4）に基づき，提案がなされた．Mycoscience 出版費は OA のためのシステム構築，プロモーション費の計上として 200 万円増加の予算を組んでいると補足説明があった．

→ 修正事項の確認を経て，予算案が承認された．

以上．

【資料 3】

2020年度日本菌学会一般会計予算案

2020.3.31

収入の部

費目	2018年度決算	2019年度決算	2020年度予算	前年比(%)	備考
会員費	**7,771,000**	**7,574,500**	**8,068,000**	**106.5**	
正会員	5,599,000	5,626,500	5,665,000	100.7	正会員515人x¥11,000
学生会員費	446,000	445,500	638,000	143.2	国内学生会員116人x¥5,500
海外会員費	396,000	302,500	506,000	167.3	海外正会員38人x¥11,000,海外学生会員16人
賛助会員費	750,000	700,000	700,000	100.0	賛助会員14社x¥50,000
終身会費預金戻金	580,000	500,000	559,000	111.8	終身会員費基金の1割　特別会計参照
出版物販売	**1,792,531**	**1,740,000**	**1,730,000**	**99.4**	
頁チャージ・超過ページ料	1,243,400	1,093,500	1,200,000	109.7	6000/ページ, 200頁程度と見積もり
50周年記念出版,CD-ROM等	0	0	0		
会報等	541,131	526,073	530,000	100.7	
DVD販売, 新版用語集	8,000	11,850	0	0.0	
60周年記念書籍	0	0	0		
事業費戻入	**0**	**0**	**0**		
学術振興会補助金	**3,800,000**	**3,600,000**	**3,800,000**	**105.6**	交付内定額
雑収入	**1,429,911**	**23,192,079**	**1,250,110**	**5.4**	
預貯金利子	161	109	110	100.9	基金利子含む
学術著作権協会	43,236	115,492	50,000	43.3	
広告費	0	0	0		
寄付	0	0	0		
エルゼビア編集経費	1,193,500	1,200,000	1,200,000	100.0	
その他	0	534,828	0		
AMC開催関連前受金	188,262	21,341,650	0	0.0	
科学技術振興機構	4,752	0	0		
前年度繰越金	**29,964,745**	**31,980,797**	**30,040,013**	**93.9**	
合計	**44,758,187**	**67,978,799**	**44,888,123**	**66.0**	

支出の部

費目	2018年度決算	2019年度決算	2020年度予算	前年比(%)	備考
事業費	**1,814,248**	**25,775,324**	**772,800**	**3.0**	
年次大会補助	300,000	300,000	200,000	66.7	
菌類観察会補助	50,000	50,000	0	0.0	観察会中止のため
菌類観察会下見	0	0	30,000		前年度分を含む
学会賞	19,980	59,400	127,800	215.2	「学会賞」「奨励賞2件」「教育文化賞1件」「論文賞2件」楯代・賞状；平塚賞は特別会計
菌類講座	76,370	0	0		
国際シンポジウム	220,729	200,000	165,000	82.5	日台合同シンポ
国際情報発信(AMC)	1,139,457	25,155,020	100,000	0.4	AMCのHP維持
中高生・教員向け研修	7,712	10,904	150,000	1375.6	微生物生態学会との共催活動を含む
会報刊行経費	**7,039,547**	**8,246,820**	**10,010,000**	**121.4**	
Mycoscience・日菌報編集費	0	48,000	50,000	104.2	
ニュースレター編集費	0	18,846	20,000	106.1	
Mycoscience 出版費	5,550,000	5,550,000	7,500,000	135.1	編集システムの構築, マーケティング、プロモーション活動費含む, 一部科研費
日菌報印刷費	729,682	702,463	720,000	102.5	
ニュースレター印刷費	594,989	453,671	300,000	66.1	
一部オープンアクセス化費用	0	723,800	500,000	69.1	科研費
アジア地域新種等公表	38,664	435,174	450,000	103.4	科研費
雑誌等発送費	126,212	314,866	470,000	149.3	
英語パンフレット作成費	0	0	0		
運営経費	**3,923,595**	**3,916,642**	**4,555,000**	**116.3**	
役員選挙	304,814	0	300,000		
業務委託費	2,023,920	2,042,660	2,050,000	100.4	一部科研
ホームページ維持費	234,360	0	840,000		英文ページ作成費30万円含, 管理費2年分, データベース維持費, 一部科研費
団体分担金	109,326	203,236	210,000	103.3	
交通費	489,604	888,094	400,000	45.0	
事務通信費	209,963	164,432	170,000	103.4	
法人化維持費	70,000	112,900	70,000	62.0	税, 登記手続きを含む
会計士費用	150,000	150,000	150,000	100.0	
諸雑費	266,700	272,629	280,000	102.7	クレジット決済費用含む
各種手数料	64,908	82,691	85,000	102.8	振込手数料他
予備費(次年度繰越金)	**31,980,797**	**28,661,957**	**29,550,323**	**103.1**	
合計	**44,758,187**	**47,189,957**	**44,888,123**	**95.1**	

2020年度日本菌学会特別会計予算案

2020.3.31

【終身会員費基金】

収入の部

費　　目	2018年度決算	2019年度決算	2020年度予算	備考
前年度繰越金	5,291,613	5,041,613	5,591,613	
終身会員費(新規納入分)	330,000	550,000	330,000	
利息	0	0	0	
合　　計	5,621,613	5,591,613	5,921,613	

支出の部

費　　目	2018年度決算	2019年度決算	2020年度予算	備考
一般会計繰入	580,000	500,000	559,000	4/1時点の10%を一般会計に繰り入れる
予備費(次年度繰越金)	5,041,613	5,091,613	5,362,613	
合　　計	5,621,613	5,591,613	5,921,613	

【平塚基金】

収入の部

費　　目	2018年度決算	2019年度決算	2020年度予算	備考
前年度繰越金	2,196,178	2,175,766	2,136,454	
寄付	0	0	0	
利息	0	0	0	
合　　計	2,196,178	2,175,766	2,136,454	

支出の部

費　　目	2018年度決算	2019年度決算	2020年度予算	備考
平塚賞(楯代)	19,980	38,880	19,980	
振り込み手数料	432	432	432	
予備費(次年度繰越金)	2,175,766	2,136,454	2,116,042	
合　　計	2,196,178	2,175,766	2,136,454	

【菌学振興基金】

収入の部

費　　目	2018年度決算	2019年度決算	2020年度予算	備考
前年度繰越金	6,442,291	6,290,995	6,090,995	
大会余剰金	0	0	0	
寄付	0	0	0	
利息	0	0	0	
合　　計	6,442,291	6,290,995	6,090,995	

支出の部

費　　目	2018年度決算	2019年度決算	2020年度予算	備考
若手国際会議参加費補助	150,000	198,000	200,000	日台合同シンポジウム
振込手数料	1,296	2,695	3,000	
予備費(次年度繰越金)	6,290,995	6,090,995	5,887,995	
合　　計	6,442,291	6,290,995	6,090,995	